

# 富士山！万歳！！

8月21日（水）～8月24日（土）

IN 国立中央青少年交流の家～赤岩八合館

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	施設に到着	作戦会議
2日目	荷造り・出発	富士登山	山荘到着
3日目	山頂出発・下山開始	施設到着・片付け	振り返り
4日目	施設清掃・施設を出発	施設見学・解散	

**一日目：** 週頭からあまり天候がよろしくなく、不安な感じがしますが、皆の気持ちは山頂を目指す以外なく、やる気に満ち溢れている様子でした。全体集合すると、一路静岡県御殿場市を目指しました。道中は長いので、その間に今回一緒に登る方々の名前や好きなもの、学校での様子など沢山の情報を交換しました。そうして、仲間を作っていきます。お互いの事を分かるようになり、気兼ねなく話せるようになる頃に、施設に到着しました。キャンプ経験者が多く、指示があるとテキパキ動かれていました。夕飯を終え、翌日の富士登山に向けての装備や服装、持ち物などを話し合う【作戦会議】を行いました。初めて登る方は、経験者のアドバイスに耳を傾け、自分の持ち物の再確認をしました。備えあれば憂いなしですが、その負担は全て自分が背負わなければいけません。そのバランスを考え、準備をしてお休みしました。明日は本番です。頑張りましょう！！



**二日目：** 朝から緊張されている様子の方々がおられました。良い緊張です。朝食を済ませ、リュックに詰め込む作業【パッキング】を行いました。準備した物をどうすれば少しでも負担を軽くして背負う事が出来るかを考えながら詰めました。そして、準備万端に整ったらついに出発です。まずは、五合目までシャトルバスで向かいます。五合目は既に下界と違い、空気が薄いので体を慣らすために昼食を兼ねて一時間ほど休憩しました。その間に、もう一度服装の確認や靴紐の結びなど、再三の確認を終え、ついに出発です。お馴染みの“富士宮ルート”から上がっていきます。五合目で既に2400mあります。そこから約1000mを登ります。初めは楽勝ムードでしたが、六合目越えたあたりから、徐々に疲れが始めてきました。七合目手前では足が止まり、しんどさを訴えてくる方が出てきました。その時、周りのメンバーは励ましたり、荷物を代わりに持ったり、背中を押したりされ、『みんなで登る』意識が定着されている様子が伺えました。誰一人欠けることなく全員で進みました。時には音楽を流して気を紛らわして登りました。八合目手前が疲れのピークで、掛け声も少なくなってきましたが、そうした時こそ、経験者が声を張って、皆にエールを送っておられました。八合目に到着すると、そのままルートを“御殿場ルート”に切り替えるために富士山をトラバースしました。その時に太陽がうつすら顔を出してくれたので、皆のテンションも上がりました。御殿場ルートに辿り着くと、今回のゴール【赤岩八合館】まであと少しです。最後は皆で声を掛け合い、無事に全員山荘に到着する事が出来ました。着いた時のみんなの表情はホッとされていました。山荘に入り、着替えを済ませたら、夕飯の【カレー】をいただきました。おかわり自由なので、沢山食べておられました。その後は、明日の準備を済ませ、20時には皆布団に入られていました。明日は夜中に起きて、山頂を目指します。おやすみなさい。





**三日目：** 本来なら夜中に起きて、山頂にてご来光を目指す計画でしたが、出発前頃から雨が降り出し、本降りになってきたので、予定を変更し、夜が明けて朝食を済ませてから出発となりました。しかし、この時に体調がイマイチの方もおられたので、下山する組と山頂を目指す組に分かれて行動する事にしました。そうしたイレギュラーな事案にも温かく対応していただける山荘の皆様には心から感謝致します。下山組は、朝食を済ませ、少し休憩をし、心身共に整えてから下山をスタートさせました。ほとんどの体調不良は[高山病]から来るものなので、下山することに回復してきます。今回も例外なく、下山が進むたびに皆の声に活気が生まれ、笑顔で下山をする事が出来ました。幸い、天気は快晴の中降りる事が出来たので、所々ではとてもキレイな景色を見る事が出来、心が温かくなりました。昼過ぎに五合目に戻ってくる事が出来ました。さすがに昨日からの疲れからバス車内では皆休まれています。施設に戻る前に、頑張ったご褒美としてスーパーにて好きなものを一品購入しました。アイスやお菓子、ジュースなど、今自身が欲しい一品を購入し、美味しく召し上がっていました。その時の表情はとても晴れやかで、富士山を頑張った証だと感じました。山頂を目指す組ですが、朝食を食べた後、すぐに準備を整えて出発します。山荘を出る頃には天気が回復していて、全体の士気も上がり、みんな笑顔で出発しました。最初は調子良く歩いていましたが、徐々に高くなる標高と疲労が、全員の足取りを重くします。ずっと山頂は見えているのですが、なかなか辿り着きません。少しずつ声掛けの頻度も減っていきました。これまで余裕の表情で登っていたメンバーにも疲れが見え、後半は己と戦う時間が多かったと思います。ただ皆、言葉数は少ないものの、それぞれお互いの存在を感じ、同じ気持ちで登っていることを感じ取りながら歩いておられ、そこには一体感がありました。しばらく登り、ついに山頂入口の鳥居が見えてきました。最後はゆずの『栄光の架橋』を口ずさみながら鳥居をくぐっていき、全員が山頂に到着しました。到達を喜んだのも束の間、少し休憩を挟み、続いては最高峰の[剣ヶ峰]に挑戦です。最後まで気を抜かず、お互いに声を掛け合って一步一步登りました。そして、最高峰に到達し、全員で喜びを分かち合いました。澄んだ青空をバックに記念撮影をし、持参したおやつをみんなで分け合って食べました。日本最高峰で食べるおやつは格別です。山頂のお店に立ち寄ってお土産を購入したら、気合いを入れ直して下山を開始します。軽快な足取りで山頂を後にし、途中休憩のために山荘に立ち寄った際は、けん玉などをして山荘の方と交流して元気をいただきました。山荘を出発する頃、徐々に天候が崩れ始め、登りとは打って変わって悪天候の中での下山となりました。激しい雨風にさらされることもありましたが、誰も弱音を一切吐かず、黙々と下りました。すれ違う登山客の方からも暖かいエールをいただきながら歩き続け、最後は全員で下山を達成しました。バスで戻ってくる頃には満身創痍で、疲れ果てておられましたが、先に下山した組と施設にて合流する時には、無事に帰ってきた安堵感から本当に嬉しそうな表情をされていました。予定時間より大幅に遅れてしまったので、急いで夕食を食べました。ゆっくり食べていただきたかったところですが、その中でも美味しく食べておられ、何度もおかわりにいかれる様子が伺えました。入浴を済ませ、寝る前にみんなの備品やゴミ、荷物の片付けをしました。そして、ようやく布団に入るとすぐに寝息が聞こえてきました。長丁場の一日、本当にお疲れ様でした。ゆっくり休んでください。



**四日目：** 朝から「体が痛い…」と筋肉痛を訴える方が続出でした。その痛みは頑張った証として、痛みにも耐えながらも朝の集い、朝食を済ませました。朝食後はお世話になった施設の清掃と荷物運びです。ご自身の荷物はもちろんのこと、友達の荷物の片付けの手伝いや、施設の清掃や荷物移動を誰もがサボる事なく、率先して行動されている事に心から感心しておりました。チェックアウトも無事に済み、沢山お世話になり、思い入れのある施設にお別れを伝え、出発しました。本来プールの予定でしたが、雨雲の影響が少し心配だったので、行先を“富士山世界遺産センター”にしました。ここでは、富士山の歴史や構造などを知る事が出来、また体験を通して、富士山の魅力を感じる事が出来ます。実際に我々は登ったので、肌で感じた事を照らし合わせる事で、学びがより一層

深くなったように思えました。また、ここでしか買えないお土産もありましたので、吟味し、購入されていました。センターを出発し、高速のサービスエリアにて昼食を済ませ、お土産購入の時間を設けました。これまでも富士山やセンターなどでお小遣いを使用されているので、残りわずかとなっておりますが、最後まで選び購入されていました。そして、バスは関西に向かい、定刻通り京都に到着しました。ついに苦楽を共にした仲間とお別れです。最後に握手と会話、約束を交わし、兵庫組はバスに、京都滋賀組は帰路へと向かいました。尼崎にて更に分かれ、各々帰路へとつかれました。一人一人の帰る後ろ姿は、初日のどこか浮ついている雰囲気はなく、富士山を通して身に付いた『確かな成長』を感じさせられました。



## <キャンプ総括>

直近三～四年の富士山は、天候や気候に恵まれ、非常に登山のしやすい環境下で実施出来ておりました。今年は久々に雨の中での登山で、過酷な環境でした。特に三日目の夜に登山を行おうとした際、雨が強くなってきたので、途中で引き返したのですが、その時にほとんどの方の心が折れており、体調不良が続出しました。それから朝食までの三時間ほどで、自身の折れた心をなんとか立て直し、自分に気合を入れた人が山頂を目指すことが出来たと考えております。立て直す事が出来なかった人達は、改めて自身への甘さと、心の弱さとに向かい合う事が出来たと思います。その証拠に先に下山する際、今回の結果に対して納得される姿と、「次は必ず登る!!」という熱い想いを見る事が出来ました。登っても達成感から成長は出来るし、登れなかったとしても悔しさと自身の再認識から成長が出来ます。富士山は凄い存在だと、改めて感じさせられました。そして、それに挑戦出来ることに感謝をし、皆の成長をこれからも富士山からしっかり引き継いでいきたいと強く思いました。最後となりましたが、今回の富士登山で頑張らなかった人は誰一人おりません。結果だけを見るのではなく、まずは頑張った自分を褒めてください。そして、富士山の力を借りて、一つ高みへ上がった自分を活かしてください。本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

(竹中 哲郎)